



水引 [Mizuhiki]

飯田の水引生産は、元禄時代に飯田藩士の姫親皇の精進興業として始まり300年近い伝統を持ち、現在では全国の70%を生産しています。信州の清澄な自然と飯田地方の上品で繊細な感覚を活かし、心こもった品として全国から厚い信頼を受けています。

三遠南信自動車道

飯橋道路

人と自然のありかたを考えた、新しい道路づくり。

三遠南信地域は古くから人や物が行き交い天竜川、豊川の恵みを得て文化と歴史を創ってきました。かつてこの地域は、街道、天竜川の通船、そして鉄道へと交通手段が移り変わりつつも、地域間の交流は広く行われていました。しかし、モータリゼーションの後に周辺地域と比べて自動車交通の進展に取り残された長野・愛知・静岡県境地域は、現在過疎化が進み切実な問題を抱えています。今日、失われたこの地域の交通流を取り戻すことで県域を超えた広いネットワークが形成され、今後地域の活性化に大きな役割を果たすものと期待されています。そのためにも、秋葉街道や天竜川の代わりとなる「三遠南信自動車道」の整備が切望されています。

さまざまな交流が芽生え始めています。

産業のコミュニケーション

三遠南信地域は企業間の技術連携が芽生え始めています。工業生産に強い三遠南信地域では、飯田市周辺の精密技術は評価が高いことから浜松地域の企業は、共に発展していけるようにと共同開発が行なわれています。また、豊かな農業地域と大きなマーケットも併せ持つこの地域では、三遠南信地域の生産農家や商店間で知恵を出し合い、協力し合って商品開発を行い農家との直接契約を結ぶなど、技術以外の連携も確実に進んでいます。

行政の枠を超えたコミュニケーション

三遠南信地域では、地域間での情報交換はもとより、災害時に互いに助け合う「防災協定」を県境の壁を超えて結んでいます。また災害時以外にも、職員を互いに派遣し合うことで理解を深めています。三遠南信の未来を語り、実現に向けた取り組みを行うために、行政や経済団体が組織の枠を超えて一堂に集まり「三遠南信サミット&シンポジウム」を毎年開催している他、各種の会議やイベントが開かれ始めています。



「SAN圏域」に名称決定

静岡(S)愛知(A)長野(N)の県境3圏域市町村の交流懇談会は、この地域のネーミングとシンボルマークを募集し「SAN圏域」として名称とマークを決定しました。名称は「明るい太陽(SUN)」、シンボルマークは川と緑豊かな山々を表現し「飛躍する地域」と「羽ばたく鳥」をイメージしています。



人と文化のコミュニケーション

「りんこの里とみかんの里」、「天竜川の上流から河口までを下るカヌーなどのスポーツ」「民俗芸能」や「歴史」これら全て、子供から老人まで年齢性別を問わない文化交流のキーワードとなっています。たとえば三遠南信地域では、霜月祭りや花祭り、神楽や田楽、演奏会や人形劇などの交流が行なわれたり、地域の交流と振興を考える「三遠南信サミット」が毎年開催されています。



「このように、今口では地域や業種の壁を超えた新しい「交流・連携」の芽が芽生えています。「三遠南信自動車道」はこれらをより大きく育てる支えとなります。」

飯田ではじまる新しいまちづくり

「環境文化都市」一人も自然も美しく輝くまち、飯田

飯田市は全国初のエコタウン事業の4地域のひとつとして経済産業省から地域指定を受けました。

飯田市エコタウンプラン・天竜峡エコバレープロジェクト

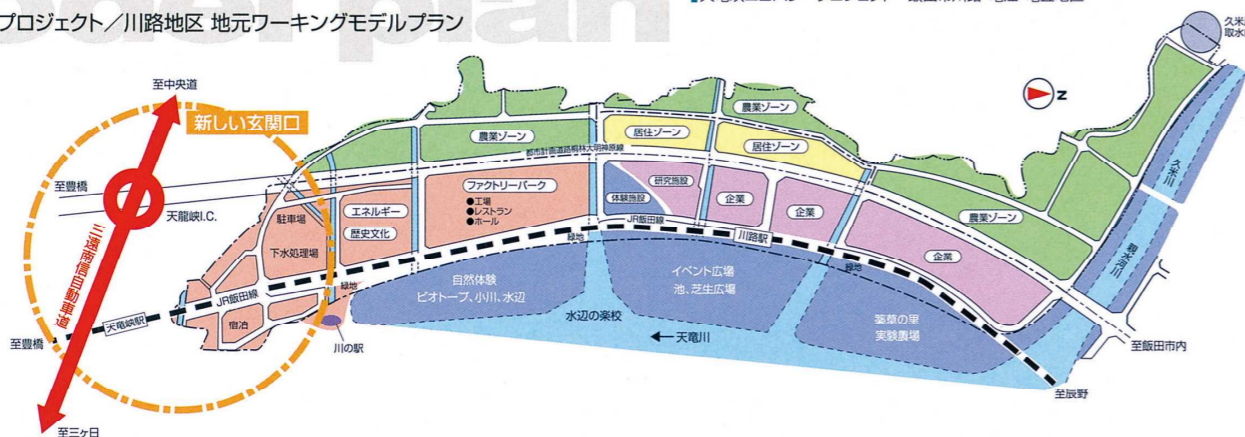
●環境と調和する、産業と交流の拠点づくり

天竜峡とその周辺一帯を、人と自然の営みが調和する地域社会のモデルゾーンとして整備するとともに、飯伊地域の新しい産業と交流の拠点を創出します。そのため、三遠南信自動車道や治水対策事業をいかにして、環境関連産業を創造・育成し、交流の拡大を図るとともに、エコライフを推進するための施設や、緑に包まれた一体的な都市基盤の整備を目指しています。



天竜峡エコバレープロジェクト 飯田市川路・竜江・竜丘地区

◆天竜峡エコバレープロジェクト/川路地区 地元ワーキングモデルプラン



豊かな自然に配慮した道づくりを進めていきます。

動植物の生息・自然環境に配慮した、道路整備が求められています。

飯喬道路の計画区間は、天竜奥三河国定公園を中心とした自然が豊かな地域です。このため、飯喬道路の建設に向けての取り組みとして、地元の有識者等の意見や情報を収集し、環境に及ぼす影響の緩和や自然との調和を保つ方策を考えています。



飯喬道路の工事

飯田山本インターチェンジから天竜峡インターチェンジに至る7.2kmの1工区は平成20年4月、天竜峡インターチェンジから龍江インターチェンジに至る7.4kmの2工区は令和元年11月までに開通しました。現在3工区の工事を進めています。

◆天竜峡大橋架設の様子



◆ケーブルエレクション架設工法

天竜峡大橋は、名勝天竜峡に位置し、1級河川天竜川とJR飯田線を一気に跨ぐ、橋長280m、高さ80mの鋼製の上落式アーチ橋です。橋を架ける方法はケーブルエレクション架設工法が採用されました。工場で製作された橋梁の部材を、高さ60mの鉄塔間に張り渡されたワイヤーロープを使って組み立てる工法です。

飯喬道路(一般国道474号)の概要

飯喬道路は、三遠南信自動車道の起点である飯田市山本の中央自動車道から同市上久堅の飯田上久堅・喬木富田I.C.を経て喬木村の喬木I.C.に至る延長22.1kmの自動車専用道路です。

飯喬道路は、既存の中央自動車道と有機的に結びついた高規格幹線道路の効率的ネットワークの形成、高速サービス圏域の拡大に資する区間であるとともに、飯伊地域の中心都市飯田市に集中する交通の分散を図る観点からも、一般国道151号、153号、256号をハシゴ状に結ぶ環状道路としての整備が必要な区間です。

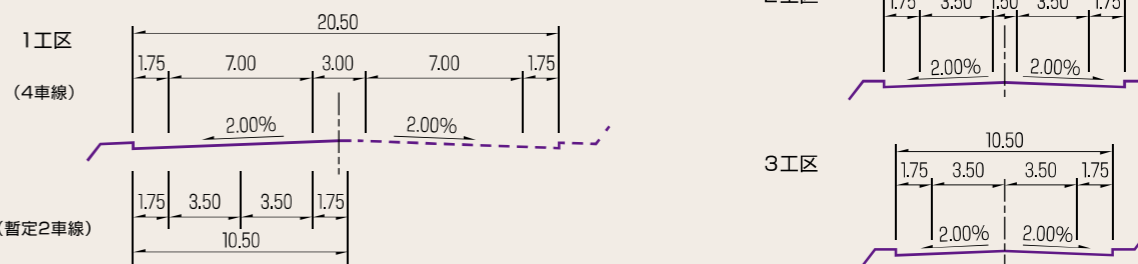
●飯喬道路の事業経緯

昭和63年度 高規格幹線道路調査着手
平成2年11月 基本計画承認
平成4年度 事業着手
平成6年1月 環境影響評価の手続きを完了
平成7年度 計画協議及び用地買収着手
平成9年2月 整備計画承認
平成10年度 工事着手
平成20年4月 飯田山本I.C.～天竜峡I.C.暫定2車線開通
平成30年3月 龍江I.C.～飯田上久堅・喬木富田I.C.完成2車線開通
令和元年11月 天竜峡I.C.～龍江I.C.完成2車線開通

●飯喬道路の計画

| 工区 | 1工区 | 2工区 | 3工区 | |
|------|------------------|------------------------|-----------------------|--------|
| 区間 | 飯田山本I.C.～天竜峡I.C. | 天竜峡I.C.～飯田上久堅・喬木富田I.C. | 飯田上久堅・喬木富田I.C.～喬木I.C. | |
| 延長 | 7.2km | 7.4km | 7.5km | |
| 構造規格 | 標準幅員 | 1種3級 | 1種4級 | |
| | 設計速度 | 80km/h | 80km/h | 60km/h |
| | 車線数 | 4車線(暫定2車線) | 2車線 | 2車線 |

●飯喬道路の標準断面図(土工区間)



事業の投資効果

効果1 高規格幹線道路網を補強し、広域的な交流促進を実現。

●矢筈トンネル開通の効果(小川路峠道路)平成6年3月開通



●飯喬道路 小川路峠道路開通により、飯田市役所からの1時間圏内が拡大します。

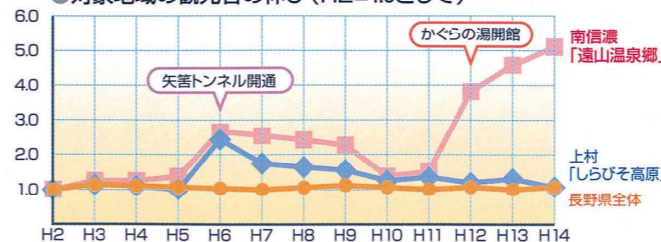
現状で飯田市役所まで1時間で到着する町村
飯喬道路整備後に飯田市役所まで1時間で到着する地域



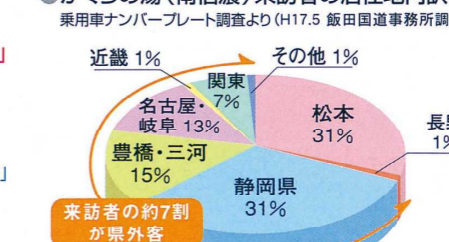
効果2 地域経済基盤構築の支援。

●長野県全体の観光客が減少するなかで、南信濃への観光客の伸びは著しいものがあります。飯喬道路、小川路峠道路の整備による「広域的交流促進」「生活道路の安全性・信頼性向上」等の効果により、遠山地域(遠山温泉郷)への観光客の更なる増加が期待でき、地域の経済の発展・活性化が期待できます。

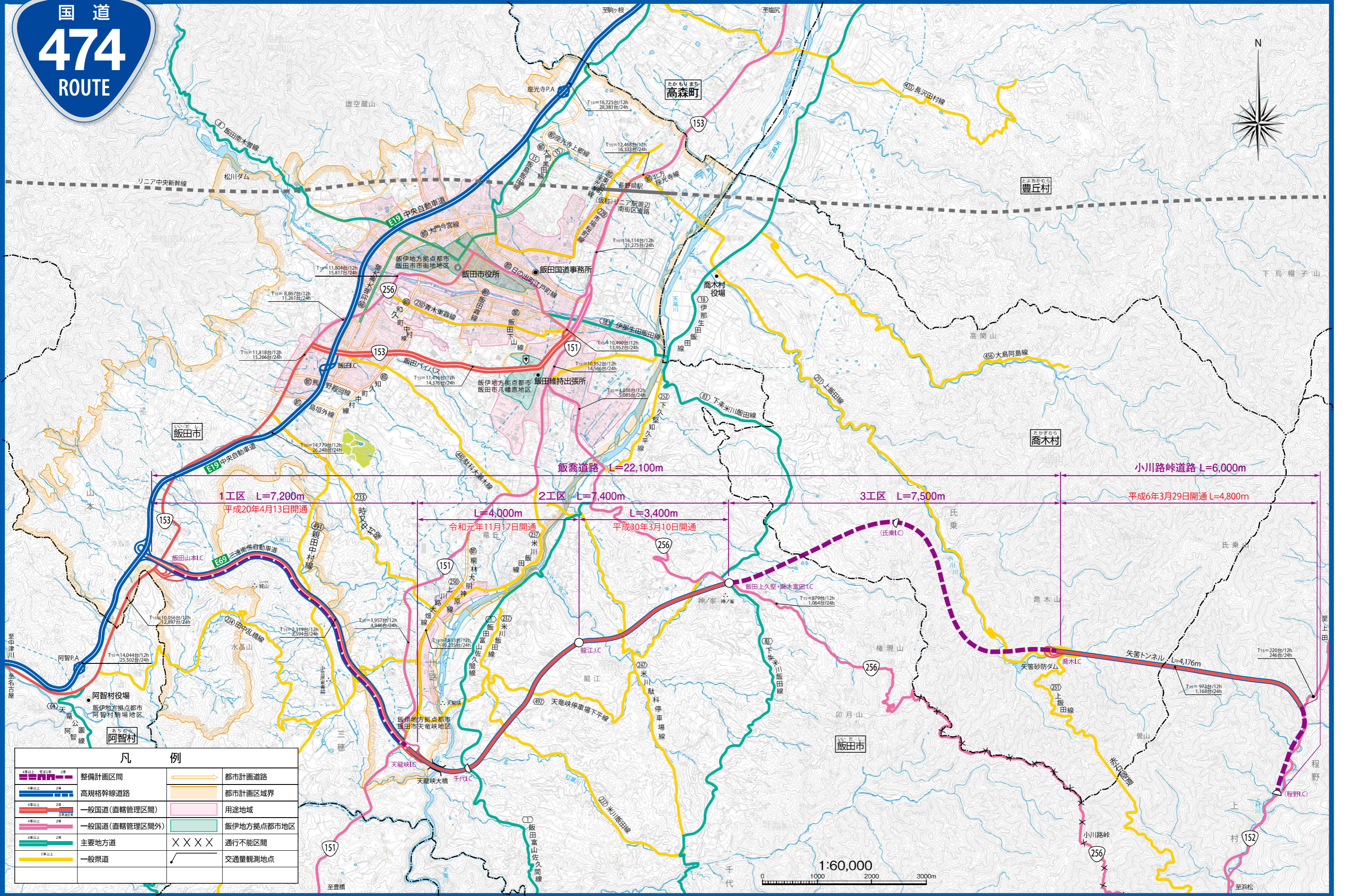
●対象地域の観光客の伸び(H2=1.0として)



●かぐらの湯(南信濃)来訪者の居住地内訳



国道 474 ROUTE



| 凡 例 | |
|-----|---------------|
| | 整備計画区間 |
| | 高規格幹線道路 |
| | 一般国道(直轄管理区間) |
| | 一般国道(直轄管理区間外) |
| | 主要地方道 |
| | 一般県道 |
| | 都市計画道路 |
| | 都市計画区域界 |
| | 用途地域 |
| | 飯伊地方拠点都市地区 |
| | 通行不能区間 |
| | 交通量観測地点 |

IC名、JCT名の()書きは仮称。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第936号) 承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。